

キャラクター名	プレイヤー名
峯田 雛菊	

シンドローム	バロール オルクス	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプション	ノイマン	年齢	17	性別	女
覚醒	無知	衝動	破壊	初期侵食率	31 %
出自	天涯孤独	経験	殺傷	邂逅	ファンタズマ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	0	1	0			1	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	3	0	0			3	戦闘移動	12
社会	3	0	0			3	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
[03] 変異種/イレギュラー	P	N			
ハイル・ブロン (三浦 勝馬)	P 執着	N 偏愛			
"Last Resort"	P 好奇心	N 憐憫			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	6	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
死神の瞳	4	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	命中した対象の次ダメージ+ (Lv+2) D							
悪魔の影	1	5	メジャー	視界	単体	対決	80%	
効果:	命中した対象は次の攻撃にリアクション不可							
領域の盾	1	4	オート	至近	単体	自動	-	
効果:	任意の対象にカバーリングをさせる、Lv回/1シーン							
支配の領域	2	6	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	判定の目をひとつ1に、Lv回/1S							
絶対支配	2	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果:	《支配の領域》の選択数を (Lv+1) にする							
スモールワールド	2	3	オート	視界	単体	自動	80%	
効果:	達成値-Lv×5、1回/1S							
プレディクション	3	4	メジャー	-	-	対決	Dロイス	
効果:	組み合わせた攻撃のドッジ不可、Lv回/1S							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

人の死に顔を眺めることを趣味としている女子高生。希望を抱いて笑い合うもの共がまるで金太郎飴を切り落としたがごとく似たり寄つたりにやけ面を浮かべるのに対し、絶望に染まったひとりぼっちたちは、なんと多彩な表情を浮かべてくれるのだから。あるものは煉獄から解放されるがごとくやすらぐか、あるいは我が子を殺されたがごとく涙を流し、あるものはこの世全ての不条理を憎むがごとく怒りを握りしめ、あるものはこの後訪れる死というものを真に理解しているがために、畏れが顔を歪ませる。鋭峰も断崖もないならかな人生にちょっとした刺激が欲しかった彼女はレネグイドウイルスに感染しないまま自殺補助を始めた。

手始めに自殺志願者が集まる掲示板「Last Resort」を立ち上げた。情報の激流が絶えないSNSでは相手にされないフィッシュたちにとって、自分たちの叫びをリロードされない時代遅れの匿名掲示板はたいそう居心地が良かったらしい。そんな魚の群れの中で、素質があるものに声をかける。待ち合わせの時間は午後5時半。登下校に使用している駅に呼び出した彼らの人生を30分だけ聞いてやる。そして、午後6時ちょうど。ある時は後悔を共に背負うように。ある時は過去の傷を責め立てるように。そっと手を当てて、背中を押す。脳裏に焼き付いた遺影を噛み締める足元では、一匹のマグロが打ち上げられている。この話がずっと続いていく未来もあったであろうが、彼女の世界にはレネグイドウイルスが蔓延していた。轢き殺されたはずの少年の傷がみるみる癒えていき、彼の咆哮に自分以外がバタバタと倒れていく。自分が彼のような化け物であると知った時、妙に合点がいった。これまでの犯行はおろか、あれの家に転がり込むために両親を始末したことさえも警察にばれずやり過ごしている現状がどうして続いているのか。その日を経て彼女の在り方は変わらなかつたが、その日からは世界の裏側に腰掛けることになった。

スローペースでのんびり屋のくせして飽きっぽくて退屈しい。スポーツやゲームといった反射的なレスポンスが求められるコンテンツは楽しめないせいで、読書や散歩といった自分のテンポで楽しめるコンテンツはすぐ飽きる。つまるところこの世界がつまらないのは彼女がつまらない人間であるせいであり、つまらない人生の最後の灯火を接種することでしか生を実感できないのが彼女である。生きていく理由もないため、彼女もまたフィッシュたちのようにホームから足を滑らす未来が十分にありえる少女ののだが、死ぬ訳にはいかない理由はあるらしい。その場しのぎのためにバンドマンとしての未来を語り、女子高生に金をタカるヒモ。三浦 勝馬は彼女の彼氏であり、彼女と同じくつまらない人生を生きてつまらない人間である。彼女とたひとつ違う点は、死に顔を眺めるといった悪趣味な儀式を経なくともヒトとの繋がりを持つことができ、なおかつ金づるとして峯田 雛菊という存在を大切に思っている点である。明確な理由をもって誰かから欲される経験を持ち合わせていない彼女は、死に際すつつまらない、殺す価値すらない彼に執着してしまった。酔生夢死に身を委ねていた彼女の人生において